



第456号
2025年 6月
〒461-0004
名古屋市中区東区2丁目6-35
カトリック名古屋教区広報部
電話 (052) 935-2223
FAX (052) 935-2254
news@nagoya.catholic.jp
印刷所 株式会社 荒川印刷
毎月第1日曜日発行



2025年 通常聖年
希望の巡礼者となつて
聖年をともに歩みましょう

教区ホームページ

福音のひびき

6月の説教者

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 1日 | 主の昇天
ボノン・フレデリック・フリッツ
(福井教会) |
| 8日 | 聖霊降臨の主日
椎尾 匡文
(高蔵寺教会) |
| 15日 | 三位一体の主日
大海 明敏
(平針教会) |
| 22日 | キリストの聖体
北向 修一
(春日井教会) |
| 29日 | 年間第13主日
モルク・フランシス・アジ
(岡崎教会) |

新教皇選出される



5月8日(木)午後6時9分(日本時間9日午前1時9分)、システリーナ礼拝堂の煙突から教皇選出を告げる

新教皇レオ十四世略歴

1955年9月14日、シカゴ(アメリカ合衆国イリノイ州)生まれ(69歳)。1977年、セントルイス、聖アウグスチノ修道会に入る。
1981年8月29日、終生誓願宣立。シカゴ・カトリック合同神学校(Catholic Theological Union of Chicago)で学び、神学部を卒業。
27歳で聖アウグスチノ修道会からローマに派遣され、教皇庁立聖トマス・アキナス大学(アンジェリウム)で教会法を学ぶ。
1982年6月19日、司祭叙階。
1984年に教授資格を得、ペルー、ピウラのチュルカナスでの宣教活動のために派遣される。
1999年、シカゴ、善き勧めの聖母管区管区長に選ばれ、2年半後、修道会通常総会で総長に選出される。
2014年、教皇フランシスコによりチクラヨ(ペルー)教区使徒座管理者に任命され、司教に上げられ、スファール教区名義司教となる。

白い煙が上がり、サンピエトロ大聖堂の鐘が鳴らされた。

コンクラーベ開始2日目、午後の1回目(最初から数えて4回目)の投票による選出により、午後7時13分(日本時間9日午前2時13分)、サンピエトロ大聖堂バルコニーに助祭枢機卿のドミニク・マンベルティ枢機卿から新教皇選出が告げられた。その後、午後7時23分(日本時間9日午前2時23分) ロバート・フランシス・プレヴォスト枢機卿(北米大陸出身初の教皇)が現れ、新教皇はレオ十四世を名乗った。

2015年、グアダルーペの聖母の祝日に教区司教座聖堂において司教叙階、チクラヨ司教。2019年、教皇フランシスコにより教皇庁聖職者省委員に任命される。
2020年に司教省委員に任命される。

2020年4月5日、教皇フランシスコによりカヤオ教区使徒座管理者に任命される。

2023年1月30日、教皇庁司教省委員、ラテン・アメリカ委員会委員長。2023年9月30日の枢機卿会議でサンタ・モニカ助祭枢機卿として叙任、公表される。

2025年2月6日、教皇フランシスコにより司教職階に上げられ、アルパノ首都近郊管区教会名義を与えられる。

教皇庁福音宣教省初期宣教部門、教理省、東方教会省、聖職者省、奉獻・使徒的生活会省、文化教育省、法制省、パチカン市国委員会委員を歴任。

(中央協議会HPより抜粋
https://www.cbj.catholic.jp/2025/05/09/32317/)

教皇フランシスコで追悼ミサ行われる

布池司教座聖堂で追悼ミサ行われる



の日本人にも影響を与え、親しみのある存在であった。ミサの冒頭で松浦司教は、教皇の突然の訃報に接し、驚くとともに、力の限り働いた教皇に、そしてこのように教皇をく

ださった神に心からの感謝を表した。説教では、人と交わることの大好きだった姿を、そして二度に渡るアドリミナでは日本の司教団と自由な形で多くのことを語り合った様子などを話した。そんな気さくな教皇であったが、教皇に選ばれた時には二つの大きな決心、責任を感じていたのではと、松浦司教は語る。

「一つはアシジの聖フランシスコに倣い、教会を立て直し、それを貫くこと。もう一つは人々の話をよく聴くこと。このことについては、最後のシノドス(現在も続いている)で、徹底して全世

復活祭を迎えた翌日、教皇フランシスコは天の御父のもとに飛び立った。ヴァチカンで行われた3月26日の葬儀ミサに伴い、各地で教皇フランシスコを偲ぶミサが行われた。名古屋教区では、翌日の27日午後2時より、松浦悟郎司教主司式、約30人の司祭、助祭団のもと、400人以上の参列者が布池司教座聖堂に集まり、追悼ミサが行われた。この中にはカトリック信者以外の人々も多く参列したと思われる。核兵器廃絶、平和、環境問題などに積極的に関わってきた教皇の姿勢は一般

聖香油ミサ

4月16日(水) 10時30分より、布池教会司教座聖堂において、聖香油のミサが、松浦悟郎司教主司式により、多数の司祭団や修道者、各小教区より参加した信徒と共に執り行われた。

先唱の鄭有喆神父は、本日のミサは「キリストの王職、預言職、祭司職に与っていることを堅信の秘跡によって与えられた聖霊の霊的香油を受け」祭儀であることを確認した。

司教は説教で、まず司祭団に次のように語りかけた。「香油の祝別と同時に、司祭がその使命を更新する日でもある。神学生の時、食堂入口に詩編133編『見よ、なんと美しいことか、兄弟がともにあること』が掲げられていた。同じ志を持つ仲間同志が、一緒に食事をしながら、共に生き、切磋琢磨しながら歩んできたことを思い出す」と話し始めた。

「本日ここに集まった多くの司祭たちが、キリストに呼ばれ、生涯をかけてそれぞれの場で活躍する姿に、心強く、嬉しく思い、神の恵みに改めて感謝したい。」

1月にフィリピンで、叙階されて15〜20年の司

祭たちを対象に養成研修があった。多くの住民は、司教や司祭を見かけると近寄ってきて祝福を願うが、司教や司祭を通して神の恵みを求めるその姿に、ある意味感動した。この時、マルコ25章の、出血を患っていた女性の苦しみを思い出した。12年間も医者に見られ、苦しみを続けた女性が、イエスの服の裾に触れた途端に、病いが癒された。

先ほどの詩編133編の後半に、アロンの頭に注がれた香油がひげを濡らし、衣の裾にまで滴り落ちる、つまり神の恵みはアロンを通して、衣の裾、換言すれば最後の最後まで行き届き、それに振れた者は、神の祝福が行き渡る、その役割を私たち司祭は担っている。

教皇フランシスコは、そのことについて強調してこう言われた。その神の恵みを、私たちは自分の都合によってコントロールしてはいけません。神の恵みは、求めらる人たちにそのまま渡すようにせよ。私たちは、神の恵みを惜しみなく、自分の人生を掛けて伝える

者であり、それが私たちの使命であり、恵みである。ここに集まっている修道者、信徒の皆さんも、全員油を受けた者であり、司祭は教会の一つの役割、役割として叙階を受けるが、信徒は受洗、堅信の秘跡を受け、油を受けることによって同じ役割を、すべての人に伝えていく使命がある。本日の聖香油の油を通して、神の恵みと力がすべての人に及び、すべての人が神の前に集い、一つになつて神を称えることができるように、との願いを込めながらミサを捧げよう」と呼びかけた。

その後、ミサの中で、司祭職の誓願更新があり、聖体拝領後には、司祭、修道者のダイヤモンド・金・銀祝式も行われた。

ミサ後、地下ホールにてコーヒー、お茶、軽食にて親交を深めた。



2025年司祭叙階

ダイヤモンド・金・銀祝

4月16日10時より、カトリック布池教会で行われた聖香油ミサの終わりに、司祭 ダイヤモンド・金・銀祝の祝賀が行われた。今年度の該当者は次の通りである。

司祭叙階 ダイヤモンド・金銀祝

金 祝

ファウゾーネ・アルフォンソ神父(神言修道会)

銀 祝

ダム・ロー神父(メリノール宣教会)

修道者・奉獻生活者 ダイヤモンド・金・銀祝

ダイヤモンド祝

Sr.能登原 典子(ドミニコ会聖ヨゼフ修道院)

金 祝

Sr.松岡 克枝(ドミニコ会聖ヨゼフ修道院)

銀 祝

Sr.小椋 伸子(聖霊奉侍布教修道女会)

Sr.呉 成女(聖マリアの無原罪教育宣教師会)

ダイヤモンド・金・銀祝の方からのメッセージ

司祭ダイヤモンド祝 られることを知りまし
アルフォンソ・ファウ
ゾーネ神父(神言修道会)
司祭叙階50周年にあたり、今思うのは、神言会
の宣教師として日本に來
る恵みを得たことです。
まだ大神学生でした。來
日して新たな言語、文化
に触れたのはまるで新た
に生まれたような体験で
した。全世界に行き、福
音を宣べ伝えよという主
の命令を受けて従って生
きることは時代ごとに、
そして一人一人異なりま
すが、私の場合、派遣さ
れた日本には私に先立っ
て主がおられたというこ
とを経験しました。

それは日本人の心にあ
る互いに助け合うという
精神です。日本人の心は
そういう点で大変魅力的
で、確かにこの地には、
その人々のうちに神がお

に祈り続けてください。

誓願ダイヤモンド祝

Sr.能登原 典子O.P.(ドミ
ニコ会)

「感謝」の他ありませ
ん。限らない主の御憐
み、修道院共同体、恩人
方、家族など、本当に皆
様に支えられての日々で
した。

只々、主の御心が行わ
れますようにと願いなが
ら、月日を重ね、委ねて
まいりました。

「主のいつくしみは限
りなく、その憐みは永
遠」と歌い続けたいと
思います。

誓願金祝

Sr.松岡 克枝O.P.(ドミニ
コ会)

受洗前から望んでおり
ました修道生活をかなえ
ていただき、ここまで導
いてくださった神様に何
とお礼を申し上げたらよ
ろしいのでしょうか。

修道院の傍らでお祝いの会に心を合わせており
ます。どうも有難うござ
いました。名古屋教区の
み栄えを心からお祈り申
し上げます。

「小さき花は小さく咲
かん。小さくとも小さき
限り主をたたえて」

司祭銀祝

ダム・ロー神父様(メリ
ノール宣教会)

司祭職への召命は、私
のような不相应な人間に
対する神からの純粋な賜
物です。この記念祭は感
謝の時であり、また、過
去25年間、特に名古屋教
区で奉仕する特権を得た
この6年間の数々の失敗
と欠点に対する神の赦し
を請う時でもあります。

皆様これからも私のため
に祈り続けてください。

し、子どもたちや生徒た
ちとの関わりを通じて喜
びを感じてきました。

振り返れば、修道会を
通じて多くの恵みを受
け、毎日言葉の黙想を
通じて神様とのつながり
を深めてきました。創立
者聖カルメン・サジェス
から受けた教えに従い、
祈りの中で神様に触れ、
力を与えられることは大
きな恵みです。様々な困
難の中で「神様が備えて
くださる」「今している
ことを熱心に神様のため
に良くしなさい」とい
う創立者の言葉が、私を
神様の前で歩ませる力と
なっています。

教区典礼研修会

「聖体の秘跡」

4月29日(火)午後1
時30分より、布池教会地
下ホールにて今年度第一
回目の教区典礼研修会が
行われ、司祭、修道女、
信徒を含む約70名が参加
した。

講師として、長崎教区
司祭、日本カトリック全
国典礼委員会委員の嘉松
宏樹神父を迎え、今回の
テーマ「聖体の秘跡」に
ついて、途中休憩をとり、
2時間ほど話してもらっ
た。

内容としては、最初か
ら「聖体の秘跡」に触れ
るのではなく、聖体祭儀
の行われるミサ全体の基
本構造について、聴衆へ
の質問をしながら、わか
りやすく説明した。

ミサは基本的に開祭
「ことばの典礼」(集会祈
願後の第1朗読から奉納
前の共同祈願まで)と「感
謝の典礼」(奉納から拝
領祈願まで)、開祭に分
かれていて、聖書に関
連のある箇所、例えばル
カ24・13-33にあるエマ
オへ向かう2人の弟子た
ちの復活したイエスの目
撃体験を引用され、まさ
にこの福音箇所はミサの
構造を示し、その意味で
もミサは「ことばの典礼」
から参加することに意味
があり、それは「そして、
モーセとすべての預言者
から始めて、聖書全体に
わたり、御自分について
書かれていることを説
明された。…一緒に食事
の席に着いたとき、イエ
スはパンを取り、賛美の
祈りを唱え、パンを裂い

てお渡しになった。」(ル
カ24・27、30)の様にま
ずは旧約の朗読、新約の
書簡、福音書の朗読と説
教によるみ言葉の解き明
かしを聞き、感謝の典礼
の構造の中心をなす3つ
の点、奉納(供え物の準
備)、賛美の祈り(叙唱
から「感謝の賛歌」を
唱え、聖変化の祈りへと
続くことが、まさにエマ
オでの弟子たちの体験で
あるということを知り、
易く説明した。

さらに、一、思い起こ
し物語る。二、感謝のい
けにえを献げるとは、新
しい小羊、キリストをさ
さげていること、私たち
はイエスと一緒に自分を
ささげていること、それ
は私たちの生活 自由
時間 思いをミサに参加
することによってである
こと、そして三、交わり
の食卓を囲み、聖体を
拝領することはコムニオ
ン、つまりイエスと、そ
して互いとも一つになる
ことを心に留めながら、
与ることが肝要であると
教えられた。パンを裂い
ていて与えるとは自分を
割いて与えることである
とも話してくれた。

「聖体の秘跡」を正し
く理解するうえで、新し
い視点が開かれた思いが
した。嘉松神父の講話
は、時に長崎弁を交えた
ユーモアあふれる語り口
で行われ、休憩を含む2
時間があつという間に過
ぎたと感じさせるほど、
非常に充実した学びの時
であった。

浦上キリシタン流配者のためのミサ

名古屋へ流された流配者を偲んで

ゴールデンウィークの
始まったさわやかな晴天
に恵まれた日、主税町記
念聖堂で浦上キリシタン
流配者のためのミサが浅
井太郎神父(殉教者顕彰
委員会委員長)によって
捧げられ、約40人の信徒
が参加した。

1865年に長崎の浦
上で起こった四番崩れで
約3,300人の信徒は
日本各地に流されたが、
そのうち375人が名古屋へ
流された。1873年に
キリシタン禁止令が解か
れ、生き延びた大半の
人々は浦上に帰ったが、
75人は病死などにより名
古屋で亡くなっている。
一部の人は、八事の興正
寺に葬られたという言い
伝えが残っている。

浦上四番崩れの流配者
が最も多く、また過酷で
あったのは山口県の津和
野で、そこでは毎年5月
3日にミサが奉げられ、
「乙女峠祭り」として知
られている。司式した浅
井神父は、津和野に流さ
れた一人の若者に聖母マ
リアが現れたという話
を5月の聖母月、母の日が

【金沢教会】

卯辰山殉教者祭ミサ

浦上キリシタンを偲ぶ
ミサが卯辰山長崎殉教者
碑前で4月29日13時-14
時半に松浦信郎司教と石
川司祭チームの司式で行
われ、信徒約20名の出席
があった。(明治初期の
「浦上四番崩れ」により
3,394人ものキリシ
タンが捕らえられ全国に
流配された。金沢・大聖
寺では、その内561人と最

も多く流され375名がこの
卯辰山で殉教した)
松浦司教は、潜伏キリ
シタンは、ただじっと
隠れて信仰を守って捕
まったのではない。「石
仏80体を作るので寄付し
なさい」と寺から言わ
れ「いいえ、しません」
と断ったり、「お寺では
もう葬儀はしません」と
言っ自分の信仰を表明
したために捕まっ
たのである。危害
を加えられるかも
うしてあの様に力
強く信仰宣言でき
たのだろうか?そ
れは、直前に大浦
天主堂が出来て信
徒発見があり、そ
こで長く潜伏して

いた信者達が、ブチジャ
ン神父と会う事によって
待ち望んでいた「教会」
と繋がった。これは彼ら
にとっても大きな勇気を与
えたことなのだとは私は感
じた。毎年このミサで殉
教者のことを思い起こす
訳だが、決して過去のこ
とではない。では、私達
は自分の立場で本当に信
仰を表明しているだろう
か?私達もそのような歩
みが出来るように、この
殉教者たち、流された人
達の事を思い、信仰を通
してその恵みを一緒に
願っていかうと話を締め
くくった。

このミサに参加した皆
にとっても、改めて自
分の信仰について考え
させられる良い機会と
なった。(※記念ミサは
YouTubeにて配信中。
検索ワード「卯辰山殉教
者ミサ2025」)



第20回生命尊重講演会

「いのち」はない！

私は見捨てたくない！

4月6日、南山教会マリア館ホールに於いて、熊本慈恵病院の蓮田健院長を迎えて講演会が行われた。蓮田先生は2007年に蓮田太二前院長が設立した「このよりのゆりかご」通称「赤ちゃんポスト」を受け継ぎ、運営している。「このよりのゆりかご」は設立以来、179人の赤ちゃんを預かり、内密出産（病院にだけ名前を明かして出産する）については2019年にその制度を取り入れて以来、43例にのぼる。

会場には100人を超える人々が集まり、「赤ちゃんポスト」への関心の高さが伺えた。蓮田先生はプロジェクトを使いながら次のように話した。

「「このよりのゆりかご」にやってくる人のほとんどは、親子関係が悪く、特に母親との関係が良くない。愛着障害を持ち、自己肯定感が低い。家庭では安心感が持てず、妊娠していることを知られたら縁を切られると恐れ、誰にも相談ができないまま出産に至る例がほとんどだ。医療関係者に世話

た状況下での出産は年間約100例にもなるが、何とかみんな無事に出産してもらいたい。」

蓮田先生は困難に向き合う時、「善きサマリア人」「姦通の女」などの聖書の話を支えに乗り越えている、またラジオで聴いた本田神父の「一人一人は神の子と信じて」という言葉が心に残っている、と言う。

講演会の終りに一人の女性が手を挙げて、10年前に「このよりのゆりかご」に預けられた赤ちゃんを特別養子縁組によって育てていると話した。その隣にはすくすくと育った男の子の姿あり、先生は感無量な表情でその子を見つめていた。会場全体も感動に包まれ、大きな拍手と共に講演会は終了した。

(南山教会 工藤京子)

『チョココレートな人々』上映会

「温めれば何度だってやり直せる」

カトリック看護協会名古屋支部による自主上映会「チョココレートな人々」が2024年11月9日聖霊病院・聖霊ホールで開催され70名が鑑賞した。

この映画は、障がいのある人があまりにも低い賃金で働いている事を知った青年、夏目浩次さんが、26歳の時に障がいのある人も適正な賃金で働ける社会にしたいという思いから、障がいのあるスタッフと小さなパン屋を開いたところから始まる。いくつもの失敗や苦勞の末、トップシヨクラティエ野口和男さんとの出会いからチョココレート事業を展開することになった。アイデア次第で付加価値が高まる魔法の食材・チョココレートは、失敗しても温めれば何度でも再生できる。様々な工程を細分化し、スタッフの特性に合わせて一工程ずつ、ひとりひとりが作業を分担するという方法でチョココレートを仕上げていった。身体や心に障がいのある人、家庭に事情のある人など、多様な人々と共に福祉と経済・生きがい・生産性・働くよろこびとその難しさなど、理想を追い求める久遠チョココレートブランドの山あり谷ありの19年間を描いたドキュメンタリー映画である。

上映後に東海テレビの記者で監督の鈴木祐司さんが、夏目さんの「誰もが置き去りにしない社会を目指す」想いに共感して

様々な人々と共に福祉と経済・生きがい・生産性・働くよろこびとその難しさなど、理想を追い求める久遠チョココレートブランドの山あり谷ありの19年間を描いたドキュメンタリー映画である。

上映後に東海テレビの記者で監督の鈴木祐司さんが、夏目さんの「誰もが置き去りにしない社会を目指す」想いに共感して

日比野教会

「聖年の一日巡礼」

日比野教会では、4月27日(日)聖年の豊橋教会巡礼日帰り旅行が行われた。前会長の竹脇正実氏が、企画をしてくれ、大型バスを貸し切って満席の総勢46人で豊橋教会に向かった。志村武神父から聖年の話を聞き、皆で聖年の祈りを捧げ、巡礼が始まった。豊橋教会では、主任のピリスブッレ・ジュード神父や信徒の皆さんが温かく迎え入れてくれ、大きな聖堂は満席であった。ちょうど子供ミサの日で子供の歌声が響いていた。「とて

も良いミサで涙が出てきました」「感動しました！」と参加者の声。ミサ後、豊橋教会の方々が子供達にお菓子も用意してくださり、皆、大喜びであった。豊橋教会の皆さんの温かいおもてなしを嬉しく思った。ミサ後は教会学校の子供達が楽しみにしていた『のんびりパーク』に行った。とても広く動物園や植物園、博物館や遊園地もあり、それぞれ好きな場所を一目散に向かった。子供達は、今回の巡礼ツアーの中で、とても仲良くなり一緒に遊んだり、子供同士で行動している姿も見られ、本当にいきいきと嬉しそうに遊んでいた。

大人の参加者たちもお弁当を持ち寄って皆で楽しそうに過ごした。帰りのバスでは、聖年公式マスコットのルーチェの人形を上位の景品にし、全員でビンゴゲームをし、大人も子供もとても盛り上がった。今回、子供も大人も喜べるように色々考えて企画や準備をしてくれ、当日も、皆のた



第15回日本カトリック障害者連絡協議会名古屋全国大会

—キャラバン隊訪問について—

日本カトリック障害者連絡協議会(略称障連)は1981年の国際障害者年に教皇ヨハネ・パウロ2世が来日したことをきっかけに発足し、今年で43年目になる団体です。カ障連の趣旨に賛同して参加した仲間、他、全国に加盟団体を持ち、年に一回の意見交換会を始め、3年ごとにプロジェクトを定めて研究などを行っているほか、機関紙「わ」の発行、定期的な役員会、研修セミナーなど、様々な活動を行っています。3年に一度、総会を兼ねての全国大会は各地の教区を巡るよう開いていきます。今までに京都、大阪、東京、札幌、横浜などで開かれており、前回は長崎教区の長崎純心大学で開かれ、参加者、ボランティアを含めて500名近い参加がありました。来年、名古屋で開かれることになっており、前回と同じくらの参加者を見込んでいます。このような大きな大会は、多くの皆様のご理解とご協力なくして

は、実現し得ません。特に遠方参加者への交通費補助は、大会参加へのハードルを大きく下げることができたため、会としてずっと続けてきたことでもあります。

これらのことを名古屋教区の皆様に直接お願いするために、この6月よりブロック会議、次に各小教区の順で大会実行委員のメンバーを中心とするキャラバン隊が訪問させていただきます。

訪問では①大会の趣旨②募金のご協力③大会を支えるボランティアのお願いなどの説明をします。

来年の名古屋全国大会成功のため、なお一層の支援をよろしくお願いいたします。

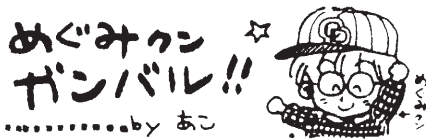
(カ障連名古屋全国大会
キャラバン担当 入口母絵
連絡先
日本カトリック障害者連絡協議会
TEL 052-852-11422

仲間をつなぐ **ウインクあいち** にあつまれ~♪
第15回 日本カトリック障害者連絡協議会
名古屋全国大会 2026.11.14-15

*振込先
郵便振込口座番号:
00880-0-117367
加入者名:
カトリック名古屋教区
障害者連絡会
※通信欄に
「名古屋大会 寄付」と
記入願います。

映画に出演されている人々の心が伝わってくるような香ばしい味わいが感じられた。
(カトリック看護協会
名古屋支部 奥村恵子)





1日(日) 宣教司牧評議会＊
8日(日) 布地教会堅信式＊
9日(月) 11日(水) 大阪高松教会管区
司教団研修会＊
10日(火) 樹の会
12日(木) 顧問会＊

6月 教区行事予定（＊＝松浦司教）

6日(日) 年間第14主日
13日(日) 年間第15主日
20日(日) 年間第16主日
27日(日) 年間第17主日

7月の主な教会暦(主日・祭日など)

29日(日) 聖ペトロ 聖パウロ使徒
(祭)
27日(金) イエスのみ心(祭)
24日(火) 洗礼者聖ヨハネの誕生(祭)
22日(日) キリストの聖体(祭)
21日(土) 聖アロイジオ・ゴンザガ修
道者(記)

15日(日) 三位一体の主日(祭)
21日(土) 聖アロイジオ・ゴンザガ修
道者(記)
8日(日) 聖霊降臨の主日(祭)
9日(月) 教会の母聖マリア(記)
11日(水) 聖バルナバ使徒(記)
13日(金) 聖アントニオ(パドヴァの)
司祭教会博士(記)

5日(木) 聖ボニファツイオ司教殉教
者(記)
3日(火) 聖カロロ・ルワンガと同志
殉教者(記)
1日(日) 主の昇天(祭)

13日(金) 松浦司教着座記念日
14日(土) 典礼委員会コアミーティン
グ／殉教者委定例会／信徒
使徒職大会＊
15日(日) 富山教会堅信式＊／愛岐B
会議
17日(火) カトリック看護協会例会
レジオ・マリエ「名古屋ク
リア黙想会」
21日(土) 司祭評議会＊
26日(木) 濃尾B会議
28日(土) 春日井教会堅信式＊／一粒
会の集い(江南教会)＊
29日(日)

13日(金) 松浦司教着座記念日
14日(土) 典礼委員会コアミーティン
グ／殉教者委定例会／信徒
使徒職大会＊
15日(日) 富山教会堅信式＊／愛岐B
会議
17日(火) カトリック看護協会例会
レジオ・マリエ「名古屋ク
リア黙想会」
21日(土) 司祭評議会＊
26日(木) 濃尾B会議
28日(土) 春日井教会堅信式＊／一粒
会の集い(江南教会)＊
29日(日)

13日(金) 松浦司教着座記念日
14日(土) 典礼委員会コアミーティン
グ／殉教者委定例会／信徒
使徒職大会＊
15日(日) 富山教会堅信式＊／愛岐B
会議
17日(火) カトリック看護協会例会
レジオ・マリエ「名古屋ク
リア黙想会」
21日(土) 司祭評議会＊
26日(木) 濃尾B会議
28日(土) 春日井教会堅信式＊／一粒
会の集い(江南教会)＊
29日(日)

(祭)＝祭日、(祝)＝祝日、(記)＝記念日

5日(木) 常任司教委員会 会議
16日(月) 20日(金) 司教総会

6月 教区行事以外の松浦司教予定

20日(日) 城北B会議／城南B会議
27日(日) 長浦教会堅信式＊

13日(日) 城東B会議／三河B会議・
司祭会議
19日(土) レジオ・マリエ「名古屋ク
リア」
20日(日) 城北B会議／城南B会議
27日(日) 長浦教会堅信式＊

9日(水) のと視察＊
10日(木) 顧問会＊
12日(土) 典礼委員会コアミーティン
グ／殉教者委定例会／信徒
協役員会
8日(火) 難民移住移動者委員会／樹
の会／のとサポートセン
ター運営委員会＊

5日(土) カトリック看護協会例会
8日(火) 難民移住移動者委員会／樹
の会／のとサポートセン
ター運営委員会＊

7月 5月号記事4面の教区行事予定6
月において、宣教司牧評議会の日程
が6月8日とありましたが、6月1
日の間違いです。訂正とともにお詫
び申し上げます。

5月号記事4面の教区行事予定6
月において、宣教司牧評議会の日程
が6月8日とありましたが、6月1
日の間違いです。訂正とともにお詫
び申し上げます。

5月号記事4面の教区行事予定6
月において、宣教司牧評議会の日程
が6月8日とありましたが、6月1
日の間違いです。訂正とともにお詫
び申し上げます。

5月号記事4面の教区行事予定6
月において、宣教司牧評議会の日程
が6月8日とありましたが、6月1
日の間違いです。訂正とともにお詫
び申し上げます。

5月号記事4面の教区行事予定6
月において、宣教司牧評議会の日程
が6月8日とありましたが、6月1
日の間違いです。訂正とともにお詫
び申し上げます。

建設費の返済に協力を

680件 38,034,661円
目標額 40,000,000円 (2025年4月末日現在)

達成率 約95.04%

郵便振替 00810-5-50605
加入者名 カトリック名古屋教区
通信欄に「福音館建設」と必ず
ご記入ください。



お詫びと訂正
5月号記事4面の教区行事予定6
月において、宣教司牧評議会の日程
が6月8日とありましたが、6月1
日の間違いです。訂正とともにお詫
び申し上げます。

◇6月の炊き出し
木5日東山、12日布池、19日聖霊・
南山・樹の会、26日城北橋
金6日喜望の会、13日南山、20日
布池、27日一宮

告知板

3日(木) 常任司教委員会 会議

〈カルメル修道会日比野修道院、講座、黙想企画〉

【旧約聖書から学ぶキリスト教霊性】 ーキリストの十字架の恵みをより味わうためにー

日 時 2025年6月21日(土) 14:30～16:30
テーマ エステル記(ヘブライ語)のメッセージとギ
リシャ語エステル記②
持ち物 必ず聖書(旧約+新約)をご持参ください。
場 所 カルメル会日比野修道院(日比野教会)
参加費 無料
どなたでもご自由にご参加ください。
担 当 志村武神父(カルメル修道会)
問合せ 日比野修道院(052-671-1003)
以降の予定 7月19日(土)、9月20日(土)
10月11日(土)

【静修の集い】

日 時 2025年6月28日(土) 10:00～15:00
講話担当 九里彰神父(カルメル修道会)
テーマ 暗夜と希望 ー十字架の聖ヨハネの霊性ー
スケジュール 講話① ご聖体顕示、昼食
講話② ミサ、茶話会
参加費 無料(自由献金をお願い致します)。
どなたでもご自由にご参加ください。
持ち物 昼食(各自持参)
問合せ 日比野修道院(052-671-1003)

エンカウンター 連続ワークショップ

シリーズⅠ 人間関係と社会的サポート「自分を大切に生きる」
～市場価値(他人評価)の「私」でなく、替えの利かない
「絶対必要」なわたしを見つけてほしい。
指 導 講 師 シュエ・ルイ・ジュン(ジョン)神父
(クラレチアン修道会会員、名古屋教区鳴海教会主任司祭)
場 所 みこころセンター
〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内3丁目6-43
日 時 6月14日(土) 13:00～16:00
対 象 年 齢 20～60代
受 付 方 法 申し込みが必要です。
参 加 費 用 自由献金
講師プロフィール
2012年メリー・ヒル神学大学院(MST)卒業、神学修士号(牧
霊学専攻)取得。
2020年、ローマ・セント・アンセルム学院(英国)の高等
教育ディプロマ課程の一部を受講、人間形成、リーダーシッ
プ、養成、コミュニティ構築(カウンセリング)を学ぶ。
申し込み・お問い合わせ先
Sr. 速水智恵美 聖霊会 TEL 052-832-0434・FAX 052-832-7556
Sr. 谷口 涼子 純心聖母会 TEL・FAX 052-756-4077
＊申し込み締め切り 2025年6月7日(土)まで
主 催 名古屋教区 女子修道会 在俗会連盟

『東海地区 一粒会の集い』 開催のお知らせ

*日時 2025年6月29日(日)
14時(受付13時半～)
*場所 江南教会
(愛知県江南市村久野町門弟山190)
*内容
◎14時～講演 「私の召命」
フランシスクス アシジ モルク神父
(岡崎教会主任司祭、神言会)
◎15時20分～司教とともに捧げるミサ
◎16時20分～茶話会
(17時 終了予定)
*主催 名古屋教区一粒会
*問い合わせ先 西村由美子
(TEL) 0561-54-9754
(SMS) 090-1279-9932

2025年度 正義と平和委員会学習会お知らせ 第2回「ウクライナ問題」

日時 2025年7月15日(火)
午前10時30分～12時00分
会場 福音館2階
(名古屋市中区葵2-6-29、布池教会東)
アクセス 地下鉄東山線新栄駅から徒歩8分、
桜通線車道駅から徒歩8分、
JR中央本線千種駅から徒歩9分
講師 浅野幸治
(正平委々員、豊田工業大学特任准教授)

2022年2月24日にロシア軍がウクライナに侵攻
し、それ以来両国は戦争状態にあります。今のと
ころ停戦の見通しも明るくありません。一体どう
してこうなってしまったのでしょうか。
戦争の原因を探るには、過去の出来事に眼を向
ける必要があります。ここでは、ウクライナの内政
問題に焦点をあてて、考えてみたいと思います。

*誰でも参加できます。自由にご来場ください。
主催 カトリック名古屋教区正義と平和委員会
連絡先 浅野幸治 asano@toyota-ti.ac.jp または
090-8860-3627

教区ニュースへの記事、掲載についてのお願い

教区ニュースは8・9月の合併号を
除き、毎月発行されてきました。
現在、編集、校正作業は3～4名で
行っており、人手不足の状態です。
毎号の準備作業にはおよそ1か月
を要します。例えば、7月号の準備
は5月末には掲載予定記事とお知ら
せが集まっていることを確認し、6
月初めに印刷業者に原稿データを渡
し、その一週間後には初校チェック、
その次の週には再校を経て、完成さ
れたものを発送し、7月の最初の日
曜には皆様の小教区で配布できるよ
うにしています。以上の理由から、

- ・掲載希望記事の提出は、発行月の1か月以上前にはご提出ください。
- ・文字数は、600～800字でお願いします。字数が超える場合は、こちらに編集をお任せください。
- ・文末は「だ、である」調で統一し、謝辞、個人的感想は省き、イベントの開催日時、場所、参加人数、内容を中心にごください。
- ・写真掲載も希望でしたら、複数送付していただき、こちらで選別させていただきます。
- ・「お知らせ」は、行事名、開催日時、場所、講師(紹介は短く)、簡単な内容、参加費、主催者と連絡先にして、詳細は省いてまとめてください。

信徒使徒職大会

日時 2025年6月14日(土)
午後1時より
(受付開始 午後0時30)
場所 カトリック布地教会地下ホール
講師 大阪高松大司教区シナピス
社会活動センター
松浦・デ・ビスカルド篤子氏
講師は難民支援に取り組んでおられ
ます。
信徒の皆様には是非参加を宜しくお
願ひいたします。